

日中平和友好条約締結 30 周年記念
「北京で会おう、2008 日中民族器楽佳節年」

二胡大競演

時間:2008.4.19(土) 13:00 ~ 16:00

場所:愛知県芸術劇場 大リハーサル室

主催:アジア胡琴音楽院 王胡会 北陸二胡協会

演奏曲目

01. **浜千鳥** 弘田龍太郎作曲
02. **エーデルワイス** ロジャーズ作曲
03. **川の流れるのように** 見岳章作曲
04. **故郷** 岡野貞一作曲
05. **茉莉花**(ジャスミン) 広東民謡
06. **見上げてごらん夜の星を** いずみたく作曲
07. **八月桂花遍地開**(金木犀が香る八月) 湖北紅安王先生作曲・王志偉編曲
08. **赤とんぼ** 山田耕筰作曲・劉長福編曲
09. **シルクロードのテーマ** 喜多郎作曲
10. **光明行**(光明行進曲) 劉天華作曲
11. **賽馬**(サイマ、草原競馬) 黃海懷作曲
12. **良宵**(リャンショウ、除夜の唱) 劉天華作曲
13. **北京有個金太陽**(北京に昇る金太陽) 蔣才如作曲
14. **奔馳在千里草原**(千里の草原を駆け巡る) 王国潼作曲
(注:作詞家を省略した)

・中国二胡・

二胡(Chinese Violin)は胡琴とも言い、構造簡単な小さな擦弦楽器ですが、時には哀愁を漂い、時には軽快で楽しく奏でる人の声に一番近い音色を出すことができ、独奏も伴奏も大活躍する中国民族音楽の代表的な楽器です。弓に馬の尾を使用し、バイオリンと同じく騎馬民族の楽器で、中央アジアのカマ - ソンチェが祖先といわれ、シルクロードを伝って漢民族に入ってきたのは遥か 1300 年も前の唐の時代であったと考証されています。バイオリンはヨーロッパで生まれ変わったのと同じように、二胡は中国大陸で新しい生命が得られ、中国民族の輝かしい伝統音楽、伝統文化になりました。

注:中国訪問出演は同じ曲目です。

演奏曲目解説

(茉莉花二胡合奏団顧問 朱新建)

01. 浜千鳥 弘田龍太郎作曲

作詞家の詩人鹿島鳴秋は新潟県柏崎海岸で、親を探して夜通し寂しげに鳴く千鳥に着想して、大正九年にこの「浜千鳥」を自らの雑誌『少女号』に発表した。東京芸大にピアノと作曲を学んだ弘田龍太郎が作曲したが、冒頭の「あ・お・い・つ・き・よ」を「ド・レ・ミ・ソ・ラ・ド」とし、「ファ・シ」抜き「四七抜き」の音階そのもの。古くからの日本独特の音階で、日本人はぴったりの、誰もがすぐに口ずさめるわかりやすいメロディーである。言葉的には「千鳥足」などがあるが、演奏をする際は「千鳥足」にならないように、千鳥にまつわる音楽と言葉、どれも日本的な情緒あるものばかり。大事に伝えていきたい日本の大切な文化や伝統である。



D 調 1 5 弦(ド ソ)で弾く。独奏のほか、合奏や二重奏もある。

02. エーデルワイス ロジャーズ作曲

「エーデルワイス」は「薄雪草」とも呼び、キク科ウスユキソウ属の多年草である。また、花の部分はライオンや猫の足の裏に似ていることから学名は「ライオンの足」という。ドイツ語では「崇高な白いもの」という。この歌は永遠不滅のミュージカル映画「サンド・オブ・ミュージック」の中で紹介され、作曲家リチャード・ロジャースと脚本家オスカー・ハマースタインの黄金コンビによる最後の楽曲である。日本語の訳詩は阪田寛夫などによるものがある。この映画の日本での公開は1965年、第38回アカデミー賞のうち、作品賞、監督賞、編曲賞、サウンド賞、編集賞の5部門を受賞している。「エーデルワイス」は祖国オーストリアを讃える歌で、スイスの国花でもある。そして、ヨーロッパ、シベリア、ヒマラヤ原産で、厳しい環境に強く生きる美しい花で、残酷な戦争を経験した人々が、平和を切望し、強く守っていく信念を訴えるメッセージが込められている。



D 調 1 5 弦(ド ソ)で弾く。独奏のほか、合奏や二重奏もある。

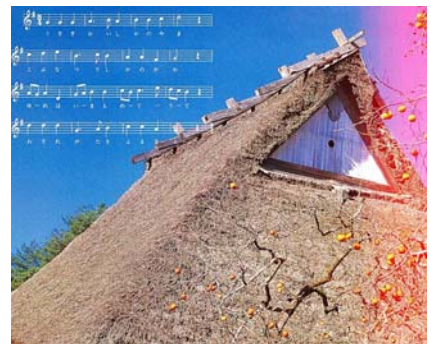
03. 川の流れるように 見岳章作曲

日本の歌姫、美空ひばりの歌である。人生はしばしば川に例えられる。小川もあれば大河もある。空から降ってきた天の恵みを一粒、一粒集めて小さな流れから川をつくり、無数の小川から大河となっていく、やがて海に注ぐとき、その一生を終える。秋本康作詞、見岳章作曲。作詞家、エッセイストで映画監督も務める秋本康がイメージした「川」は、ニューヨークのイーストリバーであった。「川の流れるように」は同名の映画もあった。

D 調 1 5 弦(ド ソ)で弾く。独奏のほか、合奏もある。

04. 故郷 岡野貞一作曲

外国で日本人が集まり、何か歌おうとなったとき必ず選ばれる曲の一つに「故郷」がある。それを聴いた外国人は言葉こそわからなくてもこの美しい旋律に感動すら覚えるようだ。唱歌「故郷」はそんな歌である。日本を代表する唱歌として、大正3年(1914)に『尋常小学唱歌・第六学年用』に初めて登場して以来、90数年歌われ続けてきた曲である。高野辰之作詞、岡野貞一作曲。作詞家の高野辰之は長野県豊田村出身で、「志をはたして いつの日にか 帰らん」と歌詞にあるように、上京し文部省の下級官吏を経て、東京大学文学部の講師になり、そして『日本歌謡史』という研究論文で文学博士号を取得。英語でも歌われているが、中国語でも歌われてほしい日本の名曲である。



G 調 5 2 弦(ソ レ)で弾く。独奏のほか、合奏もある。

日本語の発音に合わせた中国語訳の「故郷」の歌詞を添付しておく。

故 乡

朱新建译词

小白兔任你赶在那山岗, 小鲫鱼任我钓在那河旁。
童年憧憬向往仍在心中, 故乡山青水秀永远难忘。

你好吗亲爱的父亲母亲, 别来无恙我的青梅竹马。
每当刮风下雨季节变幻, 心中时刻不忘我的故乡。

胸怀大志远离故乡而去, 总有一天定要衣锦还乡。
山峦青青美啊我的故乡, 小河清清流啊难忘故乡。

05. 茉莉花 (ジャスミン) 広東民謡

「茉莉花」と題した民謡は中国各地に数十曲もあり、欧米に最初に紹介したのは、「トゥーランドット」を作曲したプッチーニ氏が、中国広東で大使をしていたイギリス人の友人からもらったオルゴールの中に入っている広東民謡の茉莉花のメロディーを編曲したものである。1980年代、中国東方歌舞団の二胡奏者で歌手の成方圓さんが最初に英語で歌ったのもこの茉莉花のである。

成方圓

Jasmine jasmine oh so fair Jasmine jasmine oh so fair
Blossoms budding here and there Pure and fragrant all declare Let me pluck you
with tender care Your loveliness with all to share Jasmine jasmine oh so fair

茉莉花はいわゆる中国の代名詞でもある。北京オリンピック開幕式・閉幕式のプロデューサーである張藝謀はアテネ五輪の閉幕式に女の子に登場させ、この「茉莉花」を歌わせた。

そして、中国ではもっともよく知られている南京六合一帯の「好一朵美麗的茉莉花」は南京前線歌舞団の何倣团长が1942年に江蘇省の民謡「鮮花調」から収集、整理し、1957年に発表した曲である。

G 調 5 2 弦 (ソ レ) で弾く。独奏のほか、合奏もある。



06. 見上げてごらん夜の星を いずみたく作曲

楽しいとき、悲しいとき、夜空を見上げてみる。すると、そこには無限に広がるかのような星たちがいる。吸い込まれそうなほど遙か遠く昔の光は、私たちをやさしく包み込み、癒しと希望を与えてくれる。永六輔作詞、いずみたく作曲。この曲は昭和35年7月、大阪で初演されたミュージカル「見上げてごらん夜の星を」のテーマ・ソングとして初めて歌われ、3年後に再上演されたときに、「上を向いて歩こう」を世界的にヒットさせた歌手の坂本九が歌ったことで大ヒットとなった。

G 調 5 2 弦 (ソ レ) で弾く。独奏のほか、合奏もある。



07. 八月桂花遍地開 (金木犀が香る八月)

湖北紅安王先生作詞作曲・王志偉編曲

「八月桂花遍地開」は今でも中国で歌われている流行歌である。1929年、湖北省大別山地域の紅安県七里坪小学校教員の王先生が、当時中国赤軍の流行歌応募のために作詞作曲した歌である。

原曲名は「慶祝ソビエト」で、当地の民謡である八段錦調の歌い方を取り入れて作曲したため、あっという間に流行したらしい。この曲は中国二胡検定試験の指定曲でもある。

D 調 1 5 弦 (ド ソ) で弾く。独奏のほか、合奏や二重奏もある。



08.赤とんぼ 山田耕筰作曲・劉長福編曲

若いころから才能を発揮した三木露風の想いが短い詩にぎゅっと詰め込まれた「赤とんぼ」。その詩は山田耕筰のゆるやかな旋律によって今も私たちに日本の原風景を思い起こさせる。歌い継ぎたい世代を超えた名曲である。

日本の名曲「赤とんぼ」を二胡独奏曲にアレンジしたのは、中国で初めて二胡碩士(修士号)を取得した中央音楽学院二胡教授の劉長福先生である。劉長福先生は40数年間にわたる二胡の演奏活動や教育を経て教えた多くの弟子が、コンクールや各地の音楽祭で賞を獲得するまでになっている。また、劉長福先生はバイオリンの演奏法を取り入れ、二胡の演奏技術を大いに高めた。

G 調 5 2 弦(ソ レ)で弾く。独奏のほか、合奏もある。



09.シルクロードのテーマ 喜多郎作曲

日本が全世界に誇るニューエイジ・ミュージック界の重鎮。70年代初頭、プロ・グレッシヴ・ロック・バンド、ファー・イースト・ファミリー・バンドに参加、国内はもとより欧米各国でも高い評価を獲得する。グループ解散後の78年、『天界』にてソロ・デビュー。80年には彼が担当した人気ドキュメンタリー番組『シルクロード』のテーマ・ソングが日本中で大反響を巻き起こす。そして、同年発表されたアルバム『シルクロード 絲綢之路』が決定打となり、喜多郎の名を世に轟かせた。その後、アメリカはゲフィン・レコードと全世界独占契約を結び、大いなる一步を踏み出すことに。90年発表の『古事記』では伝統神話を題材に壮大なスケールの音空間を構築するのに成功、ビルボード誌ニューエイジ・アルバム部門において8週連続第1位という大記録を打ち立てる。そして01年には、『シンク・オブ・ユー』で見事、第43回グラミー賞最優秀ニューエイジ・アルバム賞に輝いた。

G 調 5 2 弦(ソ レ)で弾く。独奏のほか、合奏や三重奏もある。



10.光明行(光明行進曲) 劉天華作曲

二胡奏者であれば、劉天華の名前は知っているはず。劉天華(1895～1932)は1000年以上の二胡の歴史を変えた中国著名民族音楽家である。中国江蘇省江陰生まれ、言語学者の劉半農を兄にもち、英文学者と二胡演奏家の弟の劉北茂をもつ三兄弟の次男である。1000年以上の歴史をもつ中国民族楽器である二胡は、劉天華の時代までは演劇や歌などの伴奏のための楽器にすぎなかった。劉天華はバイオリンと琵琶の奏法を二胡に導入し、自ら作曲するなど、伴奏にすぎなかった二胡を独奏楽器に変えた、いわゆる現代二胡演奏体系を基礎固めした偉大な音楽家である。23歳の時に『病中吟』を作曲し、31歳の時に北京大学の二胡教授となる。35歳の時に北京飯店にて二胡演奏家として初めの二胡独奏会を開き、世間を驚かす大成功を収めた。37歳の若さで、民族音楽収集中に伝染病に感染し、亡くなったが、作曲された10大二胡独奏曲は今でも二胡奏者の必修曲である。友人たちがこの10曲のタイトルをとり、彼の死に哀悼の句を贈った。「良月苦独病、燭光悲空閑」。



『光明行』は劉天華が1931年の作品である。奮闘、邁進、向上の情緒を込めた曲で、人々の光明への追求、社会進歩への期待を表し、失敗を重ねてもなお目標に向かって歩み続ける精神を表した名曲である。と同時に、当時一部の外国人音楽家の中国音楽への否定的な態度に対して反発するために書いた曲でもある。全曲は元気潑刺に演奏することを心掛けたい。

D 調 1 5 弦(ド ソ)で弾く。曲の途中にG 調に変調したり、D 調に戻ったりしてリズムや変化に富む独奏や合奏の曲である。

11. 賽馬 (サイマ、草原競馬) 黃海懷作曲

中国の大草原に生きるモンゴル民族とチベット民族は毎年のように「賽馬節」(草原競馬祭り)を開催している。この曲は二胡演奏家である黃海懷先生(1935～1967、武漢音楽学院二胡教授)が1959年に、モンゴル民族の歌謡曲「紅旗」をアレンジし、編曲したものです。1963年の「上海之春」初の全国二胡コンクールで作曲者本人が演奏され、大成功を得られた。この曲はモンゴル民族の草原競馬祭りの様子を生き生きと表現した曲である。今よく演奏されるのは沈利群によって編曲されたバージョンで、独奏や合奏にもってこの曲で、二胡演奏会ではなくてはならない曲となっている。1962年に作曲された『二泉映月』と並ぶ名曲『江河水』も黃海懷先生の作曲である。

F 調 6 3 弦(ラ ミ)で弾く。独奏や合奏の曲である。



12. 良宵 (リャンシヨウ、除夜の唱) 劉天華作曲

『良宵』は劉天華先生が1928年1月22日の除夜に作曲された即興曲である。爆竹の音や花火、太鼓の音やはしゃぐ子供たち。中国の除夜はどこにもぎやかである。自宅に教え子に囲まれて楽しく年を過ごしていた劉天華は、教え子にこの雰囲気作曲してくださいと言われ、自ら二胡を弾きながら、教え子に記録してもらって、最後に曲に仕上げたそうである。歌のように流暢なメロディーであり、劉天華の10大名曲の中でもっとも楽しい曲である。

D 調 1 5 弦(ド ソ)で弾く。独奏や合奏の曲である。



13. 北京有個金太陽 (北京に昇る金太陽) 蔣才如作曲

この曲は、1960年に中央音楽学院附属中学に入学し、優秀な成績で中国音楽学院に進学した蔣才如は、大学1年の時にチベット民族の同名歌謡曲をアレンジし、作曲した二胡合奏曲の名曲である。チベット民謡の特徴を生かしながらまた独奏や合奏、二重奏にも適した曲です。そして、チベット民族の青年男女が鮮やかな民族衣装を装い、輪になって手と手を繋いで踊るリズム感とイメージをもって軽快に演奏されたい。

F 調 6 3 弦(ラ ミ)で弾く。合奏の曲である。



14. 奔馳在千里草原 (千里の草原を駆け巡る) 王国潼作曲

二胡大師である王国潼先生は劉天華の直伝弟子である陳振鐸、蔣風之から教えを受け、1960年に中央音楽学院を首席卒業し、同大学の教授となる。1972年に中央放送民族楽団の首席二胡と音楽監督を歴任し、1983年から中央音楽学院民族器楽学部主任教授を経て、1992年から香港演芸学院中国音楽学部を創設し、主任教授を就任した中国二胡界の重鎮である。王国潼先生は弟子が世界各地で活躍しており、指導的な二胡関係著作や二胡名曲も数多くある。



王国潼先生は弟子が世界各地で活躍しており、指導的な二胡関係著作や二胡名曲も数多くある。

『奔馳在千里草原』は王国潼先生と李秀琪が1972年作曲した二胡独奏曲と二胡合奏曲である。大草原で馬を放牧するモンゴル民族の生活を生き生きと表現した二胡の名曲である。

F 調 6 3 弦(ラ ミ)で弾く。独奏や合奏の曲である。



参考文献

1. 『日本のうた こころの歌』 デアゴスティーニ・ジャパン
2. 趙寒陽著、『二胡演芸知識 500 問』 人民音楽出版社

附録:二胡奏法と指使い略図(朱新建編著『二胡独奏曲 櫻花縁』より)

●二胡演奏常用記号

記号	名称	意味	記号	名称	意味
▭	ダウン	弓は左から右へ	⌂	反復記号	記号内のメロディーを反復する
∨	アップ	弓は右から左へ	Π	かっこ	1回目はΠ▭を演奏、2回目はΠ▭をとばしてΠ▭を演奏
内	内弦	太い弦	∩		
外	外弦	細い弦	※D.S.	ダル・セーニョ	記号(※)のところまで戻る
0ウ	開放弦	左手の指で弦を押さない状態	♯	コーダ	記号へ行く
一	一指	人差指(左手のみ)	D.C.	ダ・カーボ	はじめに戻る
二	二指	中指(左手のみ)	1=D	調号	1(D)の音階の高さはDと同じく
三	三指	薬指(左手のみ)	(1 5弦)	調弦	内弦は1(D)、外弦は5(ソ)で調弦
四	四指	小指(左手のみ)	サ	散板	ゆっくりと置かに、自由に表現する
—	スラー	記号内の音符をダウンまたはアップで1回だけ弾く	○	ハーモニックス	倍音、弦に軽く触れて、笛のような音を出す
— —	三連符	一拍子を三等分に分け3つの音符の長さは同じ	∟	ピチカート(右手)	弓でなく、指でつまびき演奏
tr	トリル	本音の長さの範囲内で、2度以上の音程を速く反復	+	ピチカート(左手)	弓でなく、指でつまびき演奏
〰〰	モルデント	本音の前に2つの装飾音を速く付け加える	∩	フェルマータ	音をのばして、通常より長くする
ノ	滑音(ポルタメント)	1つの音から別の音へ滑りながら弾き変える	—	テヌート	音の長さを十分に保つ
♯	シャープ	同一小節内の同じ音を半音上げる	///	トレモロ	弓で急速にダウンとアップを繰り返す
♭	フラット	同一小節内の同じ音を半音下げる	▼	ダッシュ	強くかつ短く
♮	ナチュラル	♯および♭された音をもとに戻す	▽	抛弓	弓を跳ばすように演奏する

●二胡演奏常用調(弦)

1=D (1-5弦)

1=G (5-2弦)

1=F (6-3弦)

1=C (2-6弦)

1=B^b (3-7弦)

1=A (4-1弦)

内弦 外弦

千斤

上把

中把

下把

水

内弦 外弦

茉莉花二胡合奏団 (ジャスミン・アンサンブル) について



拉二胡的姑娘

茉莉花二胡合奏団は愛知学院大学外国人教師で、毎日文化センター中国二胡教室講師の朱新建の提案と指導のもと、1999年3月に、二胡教室開講1周年を記念して、二胡教室の生徒を中心に、一般の方々とも二胡演奏を楽しむために「茉莉花二胡合奏団 (Jasmine Ensemble)」を設立し、年間10回以上、延べ100回以上大小の二胡演奏を行いました。

朱新建、中国湖南省生まれ、本籍は遼寧省彰武県。1986年来日。名古屋大学博士課程(後期)日本言語文化学専攻修了。アマチュア二胡検定8級。

学生時代は学生劇団のバイオリンと二胡の伴奏者。日中友好、日中の音楽、文化を愛し、アマチュア音楽活動をしている茉莉花二胡合奏団(ジャスミン・アンサンブル)を創設、指導する。関西21世紀交響楽団と「二胡協奏曲 桜花縁」を共演。二胡関係著書に「二胡

独奏曲 桜花縁」(朱 新建編著、あるむ出版)、「跟我学中国二胡」(朱 新建編著、あるむ出版)など。現在は愛知学院大学外国人教師、名古屋大学講師、毎日文化センター中国二胡講師の他、茉莉花二胡合奏団(ジャスミン・アンサンブル)創設者・顧問・二胡奏者、日本二胡学会会員。

名古屋毎日文化センター中国二胡教室は1998年に開設以来、延べ100名を超える二胡愛好者が受講し、現在は「二胡入門」、「二胡初級」、「二胡中級」、「二胡検定(不定期)」の4コースができました。中国音楽の最高峰の、中央音楽学院民楽系主任教授で、著名な二胡演奏家、二胡教育家の趙寒陽先生をゲスト講師として日本に招聘し、名古屋、長野、東京、大阪にて日中友好交流演奏会を開きました。そして、中国二胡大師の王国潼先生の演奏風格を全面伝承した、香港二胡界若手トップ演奏家の王愷先生(レイ・ウオン、王国潼先生のご子息)に、5ヶ月間香港よりゲスト講師として月に1回来校して二胡練習の指導をしていただきました。不定期ではありますが、二胡検定コースを設け、中国中央音楽学院趙寒陽教授等による「二胡検定試験」を受験するためのコースです。6名の受講生が北京に赴き、二胡検定を受けたところ、全員それぞれの級に合格した(1級2名、4級2名、5級1名、7級1名)。さらに、演奏のため来日した著名な青年二胡演奏家の馬曉暉さんに休みの時間を割いていただき、初級と中級の二胡練習指導をしていただきました。

